

獨協埼玉中学校

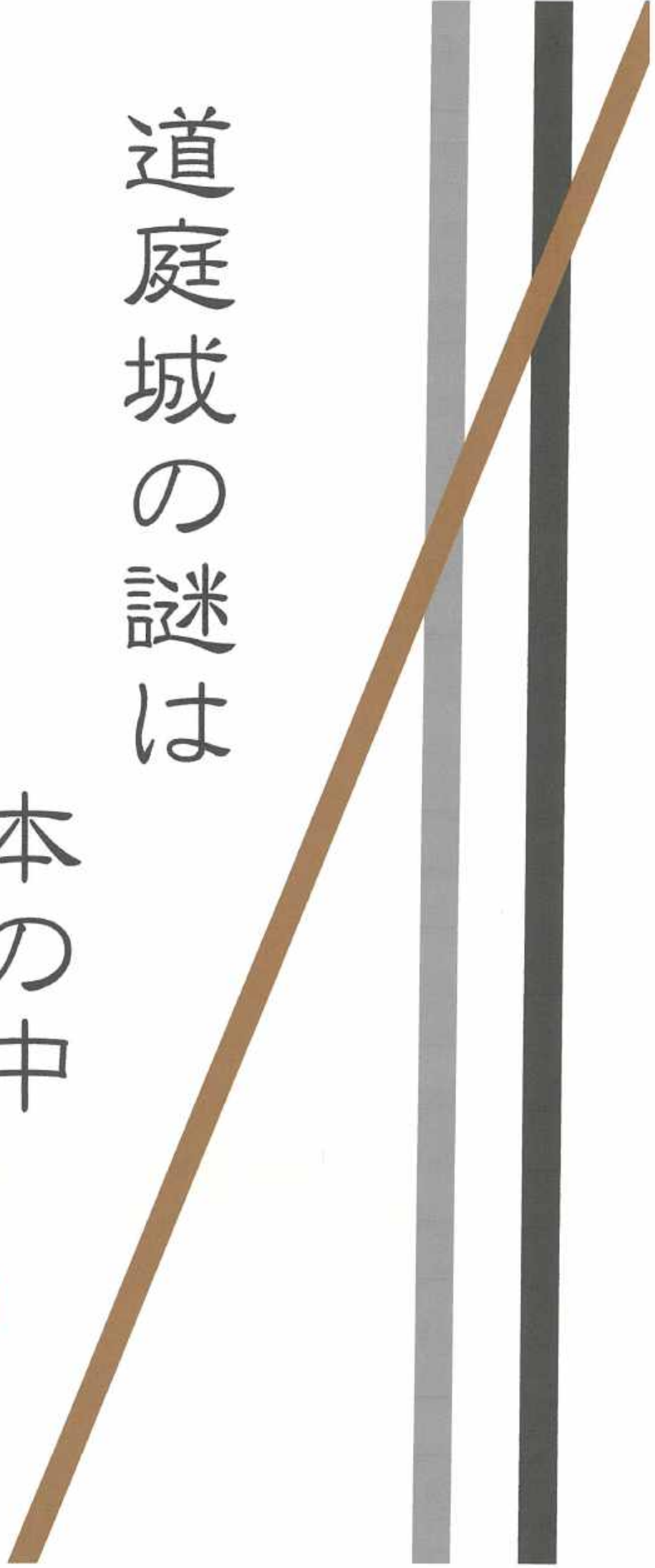
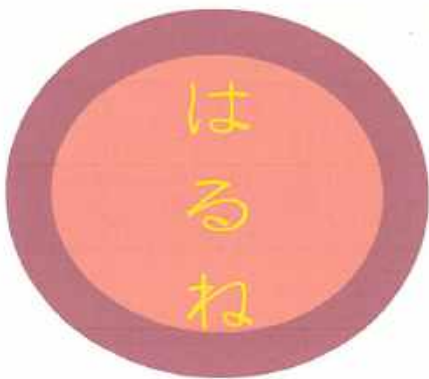
2年4組

足立噴音

道庭城の謎は

本の中

は
る
ね



1. はじめに

今まで私は道庭城があるのではないかという可能性をもとに調べを進めてきました。今年で五年目になります。今まで調べてきたおかげでずいぶん資料がたまってきました。

しかし、振り返ってみると道庭城が本当にあったという証拠を見つけたことはありません。見つけたのは道庭が城を建てるのにちょうどいい場所だということと、近くに妙見とそばたかがあったということ、道庭エリアに進出してきそうな高城氏を発見したのみです。

これでは、道庭城は幻のままです。そして、私のタイムリミットはあと一年です。

だから今回は道庭城が本当にあったという確実な証拠を探していこうと思います。

これまでの調べで、道庭城の城主は高城氏なのではないかというところまで突き止めることができました。

今回は、自分の目で古い資料を読みたいと思います。道庭城は本当にあったかもわからないものだから、今まで誰も気にしていないと思うので私が最初に見つけることができるかもしれません。「ここに、道庭城をたてました。」という言葉が見つかるといいなと思います。そうすると、私のもう一つの目標の「三郷市を有名にしたい」ということが実現するかもしれません。がんばります。



2. これまでの振り返り

道庭城は、グーグルマップにしか現れない幻の城だった。
しかし、昨年、三郷市の中村さんという方が、
昭和60年ぐらいから調べていた城だったということが
分かった！



拡大

中川沿いは、少し土地が高くなっていて
市場や関所がある。
道や川をつかって、物や人を運搬しやすいことも
道庭城がここにあったかもしれない理由の一つだ！

後北条氏の家臣が、中川沿いに何人もすんでいる。
関所や市場に近いところに住んでいるので、
この場所が重要だったことの証拠だ。

後北条氏の
家臣の家

高城氏、川をこえての
第一歩？



香取の海は水路としてすごい！

香取の海の一部！

拡大

かとり^上の海

そばたかと城はセット

むかしは手賀沼や印旛沼や霞ヶ浦がくっついていて、ひとつになっていた。これが香取の海だ。
香取の海をぐるりと囲むように、そばたか神社がある。
道庭エリアも香取の海の一部だ！
千葉県の水路の重要ポイントだ。
これも道庭城があったかもしれない理由の一つだ！

妙見とそばたか神社は千葉氏の守り神。
城とセットで祀られている。
そばたか神社・妙見は千葉氏の城の目印だ！

千葉家の関係者の高城氏は江戸川をはさんで道庭城と反対側にいる。
城をいくつもつくっているし、
江戸川を越えてたびたび侵入してきているので、
もしかしたら道庭城の持ち主かもしれない、と考えている！

ただ、道庭城があったという証拠はなにもない！！

3. 戦で活躍できるか、道庭城

(1) 本土寺過去帳

①道庭エリアで亡くなった人

道庭城があった場合、城としてどんな活躍ができるのか。市や関が近くにあるから、その場所を守っていたのではないかと前に予測した。しかし、それだけで城をたてるのだろうか？

城の役割は、

敵襲を防ぐための軍事施設

参考:教科書に出てくる日本の城(西日本編) p 39

と、以前調べており(道庭城のなぞ p 6)、もともとは「合戦のための防御拠点」なはずだ。道庭城にも合戦の記録が残っていたりしないだろうか。今までいろいろな本を読んでいたなら「本土寺過去帳」という資料がよく使われていたので、今回「本土寺過去帳」を読んでみようと思う。

●本土寺過去帳とは？

過去帳とは、寺の檀家や信徒の死者の法名・俗名・死亡年月日などを記録してある帳簿のことである。鎌倉時代以降、桃山時代に至るまでの多くの人々の氏名と没年月日などをはじめ、**合戦の記事や寄進状の写しなど重要な記載があり**、中世の文書が比較的少ない千葉県において、価値の高い史料となっている。もちろん、過去帳としての内容も豊かで貴重なものである。

参考: [本土寺過去帳\(天正本\)](#) 附 [本土寺過去帳\(明暦本\)](#) / 千葉県 (chiba.lg.jp)

東日本には中世から近世初期の文献資料が乏しいが、本土寺所蔵の「本土寺過去帳」は当時の様子を知るための一級の資料だという。

参考:「[松戸市史 上巻](#)」を大改訂 - 松戸よみうり (matsuyomi.co.jp)

そして本土寺には高城氏制札という安全保障の証文があるらしい([高城氏制札\(たかぎしせいさつ\)](#) [まつどの観光・魅力・文化 | 松戸市](#) (city.matsudo.chiba.jp)。高城氏が本土寺を守っているとのことだ。だから「本土寺過去帳」には高城氏の一族が載っているに違いない。

調べる内容にぴったりだ。

今回調べたいのは、道庭エリアで戦はあったのか？ということだから、関係のありそうな人を抜き出した。

地名	年	内容
吉川	1466	原豊前入道光胤 大ノ 寛正七丙戌二月 吉川ニテ
	1469	妙彦位 応仁三己丑六月 吉川彦太郎被誅
	1473	民部阿日言 文明五癸巳二月 吉河河原ニテ
	1473	出雲公 文明五癸巳二月 吉河
	1473	弥五郎(孫力) 吉河一禅師公 吉河 文明五癸巳二月
	1473	五郎七 同年三月(文明五) 河辺一同父母兄等 吉川大野ニテ
	1473	左京阿日京 大ノ多門坊ノ弟 吉河ニテ被打 文明五癸巳十二月
	1506	少将公日章位 永正三丁戌亥二月 吉河
番匠免	1517	高城治部少輔殿 番匠免ニテ被被 永正十四年丁丑四月

参考: 本土寺過去帳地名総覧 下 - 国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp)

残念ながら、道庭という地名は載っていない。でも道庭城のそばの地域の「吉川」と「番匠免」に、戦に関係のありそうなことが書いてあった。



グーグルマップ利用

②討死していると思われる人がいる

吉川	1469	妙彦位 応仁三己丑六月 吉川彦太郎被誅
	1473	左京阿日京 大ノ多門坊ノ弟 吉河ニテ被打 文明五癸巳十二月
番匠免	1517	高城治部少輔殿 番匠免ニテ被被 永正十四年丁丑四月

「被打」と書いてあるのは、「打つ」を「被る」だから討死の意味だと思う。
「被誅」とはなにか。調べてみた。

誅するとは上位の者が下位の者を処罰する場合に使う言葉

参照:『歴史の真相』第十三回 ~信長の首が本能寺になかった理由とは?~ | 安部龍太郎オフィシャルサイト (aberyutarou.com)

寺には日順の自筆過去帳があり、それには「天正十年六月、惣見院信長、為明智被誅」と記されている。誅するとは、一般的には上位の者が罪ある者を成敗する場合に用いる言葉である。

参照:信長公の首塚と足跡 - 観光課 - 富士宮市 | 静岡県富士宮市 (fujinomiya.lg.jp)

吉川彦太郎という人は、自分より上の位の人に殺された、ということになる。

そして、吉川と番匠免では討死する人ができるような戦が、1469年・1473年・1517年にあったらしい

③同じ日に死んでいる人がいる

吉川	1473	民部阿日言 文明五癸巳二月 吉河河原ニテ
	1473	出雲公 文明五癸巳二月 吉河
	1473	弥五郎(孫力) 吉河一禅師公 吉河 文明五癸巳二月
	1473	五郎七 同年三月(文明五) 河辺一同父母兄等 吉川大野ニテ

吉川では、文明五癸巳二月に三人なくなっている。そして文明五癸巳三月に家族全員で亡くなっている人がいる。このことから1473年2月~3月にかけて戦があったのでは?と思った。

④公とか殿とかついている人がいる

吉川	1473	出雲公 文明五癸巳二月 吉河
	1506	少将公日章位 永正三丁戌亥二月 吉河
番匠免	1517	高城治部少輔殿 番匠免ニテ被被 永正十四年丁丑四月

「公」とは「地位の高い人の姓名に付いて、敬意を表す。（参照：[公（こう）とは？ 意味・読み方・使い方をわかりやすく解説 - goo 国語辞書](#)）」という意味だそうだ。吉川でも番匠免でも地位の高い人が亡くなるくらいの戦があったらしい。

⑤「原」という人がいる。

吉川	1466	原豊前入道光胤	大ノ	寛正七丙戌二月	吉川ニテ
----	------	---------	----	---------	------

以前しらべたとき、**原という人は千葉氏の関係者**だった。そして、わたしが**道庭城の持ち主と予想している高城氏の仲間**だ。原氏と高城氏はどんな関係なのか、しらべてみた。きちんと資料でみてる。

●千葉氏の系図

「千葉氏は名門故、二〇種前後の系図が残されています。」（参照：[【千葉氏系図の整理】\(adeac.jp\)](#)）と書いてあったので、原氏のこと書いてあったものを調べた。

別本千葉系図	四家老「原・円城寺・牛尾・高城」
松羅館本千葉系図	「四家老、原・円城寺・牛尾・高城」

参照：[房総叢書 第1輯 - 国立国会図書館デジタルコレクション \(ndl.go.jp\)](#) [改訂房総叢書 第5輯 - 国立国会図書館デジタルコレクション \(ndl.go.jp\)](#)

「千葉氏の系図について」
 千葉氏の系図には、この『尊卑分脈』のほかに、寛永年間（一六二四～四四）千葉介重胤が選んだという『千葉大系図』をはじめ、誰の作かわからない『千葉系図』（『続群書類従』第六輯上、巻一四三）『松羅館本千葉系図』『神代本千葉系図』など数多く、そして、たいていは人物ごとに簡単な註を誌（しる）してある。
 参照：[千葉市-千葉市地域情報デジタルアーカイブ:千葉市史 第1巻 原始古代中世編 \(adeac.jp\)](#)

『松羅館（しょうらかん）本千葉系図』
 ・水戸松羅館に於いて製作されたと伝えられている系図で製作者不明、千葉氏の本は勿論、その氏族の名あるものには、大概収めています。相馬氏も記載されています。
 参照：[【千葉氏系図の整理】\(adeac.jp\)](#)
 ・加藤松羅が書写し、蔵書として残した史料群
 参照：[松羅館文庫](#) | [茨城県立図書館デジタルライブラリー \(pref.ibaraki.jp\)](#)

原氏と高城氏は、どちらも千葉氏の家来だった。もっと調べてみると、高城氏は原氏の家臣だった。

『小金城主高城氏之由来』八木原文書	千葉氏の家臣の原四郎胤高の次男・越前守胤雅が高城の祖
-------------------	----------------------------

参考: [松戸の歴史案内 改訂版 - 国立国会図書館デジタルコレクション \(ndl.go.jp\)](#)

小金領は、いまの松戸・市川・流山・柏・鎌ヶ谷ほぼ全部と我孫子・船橋の一部を合わせた広大な領土で、小金城が支配の拠点です。千葉氏家臣でありながら主人を凌ぐ実力を持つ原氏がはじめ、のちに高城（たかぎ）氏に譲られました。

参照: [松戸市の歴史|松戸市の歴史|松戸市デジタルミュージアム \(matsudo-digital-museum.jp\)](#)

高城氏は、15世紀前半以後、東葛飾地域に進出してきたと考えられるが、当初は千葉氏内部で実権をにぎっていた臼井原氏の家臣であった。高城氏の領域支配権は原氏から移譲されたものであった

参照: [流山市史 通史編 1 - 国立国会図書館デジタルコレクション \(ndl.go.jp\) p 577](#)



松羅館本千葉系図 別本千葉系図

高城氏は原氏の家臣でも、原氏の家族の一人で、しかも領土を譲ってもらっているぐらい、重要な人らしい。

吉川でも番匠免でも、千葉氏の中でも重要な原氏や原氏の家臣の高城氏が死ぬことが起きた。かなり大きな戦だったのではないかと、思った。

まとめると、

- ・吉川と番匠免で戦が、1469年・1473年・1517年あたりにあった？
- ・吉川で1473年2月～3月にかけて、戦があった？
- ・吉川でも番匠免でも地位の高い人が亡くなるくらいの戦があった？
- ・吉川でも番匠免でも原氏や高城氏が死ぬことがおきた？

ということになる。



グーグルマップ利用

以前にも調べたが、番匠免に近い花和田には市場があり、道庭城のそばには彦名の関と市場がある。そして、吉川にも市場がある。

周辺の市場名としては、伊久宇〔いこう〕（現足立区伊興）・花和田（現三郷市花和田）・彦名〔ひこな〕（現三郷市上彦名）・吉河（現吉川市吉川）などが挙げられている。

参照：[市場之祭文 - 『れきナビーやしお歴史事典』 \(yashio-rekinavi.com\)](#)

室町時代、この場所には河関がありました。彦名関では利根川(中川)を通行する船から通行料を取り、通行料は千葉県香取神宮の運営費用に充てられていました。

1419年、彦名関は鶴岡八幡宮の社領となったことから、通行料は鶴岡八幡宮の運営費用に充てられたと思われます。

参照：[彦名関跡 武士の館 \(fc2.com\)](#)

このエリアで戦が何回もあるのなら、きっと道庭でも記録がないだけで、何かあったに違いない。

(2) かとりのおみ

ではこの戦がおきたかもしれない時期、なにがあったのか。

1466年、1469年、1473年、1506年、1517年のあたりを調べてみたい。

まず、手がかりとして、さっき調べた本土寺過去帳をつかい、この年付近でどこでどれくらいの人がなくなっているのかを調べてみた。

本土寺過去帳に書いてある人が亡くなった場所

亡くなった場所		1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471	1472	1473	1474	1475	1476	1477	1478	1479	1480
あひこ	我孫子市						1			1	1	1	2		1		2
いちかわ	市川市						1										
いやとみ	市川市																
おおの	市川市						2	1	1					1			
なかやま	市川市																
まま	松戸市(本土寺)									1							
うしろや(つ)	松戸市								3	2					1		
かつさうち	松戸市・船橋市								1								1
かねすき	松戸市								1								
くりかさわ	松戸市	2	1	1	1		1					1					
くほ	松戸市・千駄堀		3	1			2					1	1				
こがね	松戸市		3	3	1	1			1				1				1
せんたほり	松戸市													1	1		
ひらか	松戸市		1	1			1		1	1			3	1			
まはし	松戸市						1			1			1			1	1
ふなはし	船橋市	1															
くらかけ	柏市		3	3	1								2				1
さかいね	柏市		2												2		
しこた	柏市																
タカタ	柏市						1		1	3					1	1	
とはり	流山市						1			1		2					1
なとかり	流山市なづがり						1		1	1							
まいかさき	流山市										1						
ふかい	流山市																
のだ	野田市		1														

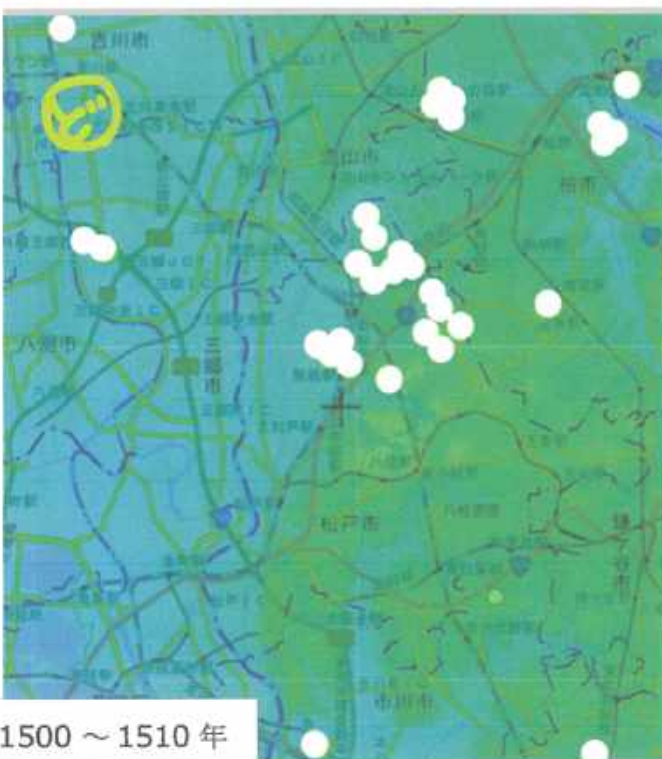
だいたい10年ほどで
1グループに分けた

本土寺過去帳に書いてある人
=本土寺の関係者

全員が戦で死んだわけではない

黄色の字は「討死」「被誅」と
書いてあった人

この死んだ人たちを地図に書き込んでみた。するとどの時期も同じようなことが起きていた。

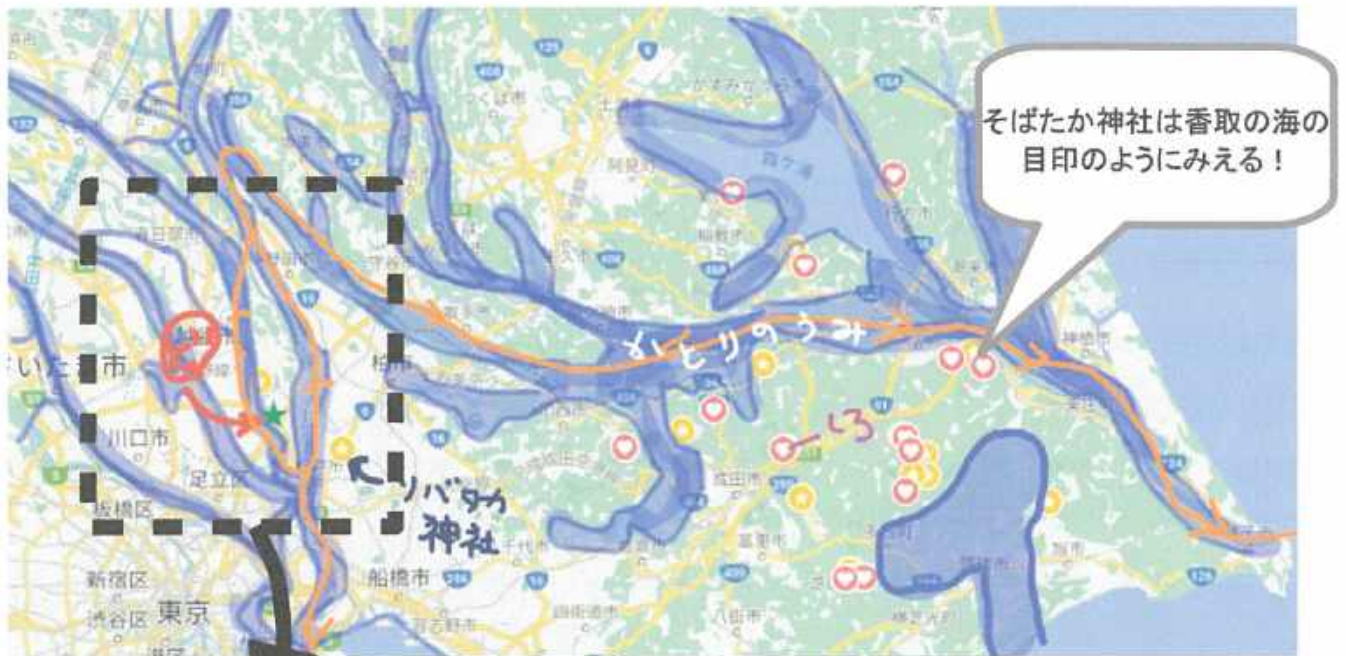


● : 死んだ人 ● : 討死の人

- ・どの年代も、だいたいおなじところでたくさんのひとが死んでいる。討死の人もいる。
- ここではおおきな戦があったのではないかな？
- ・道庭のまわりと地図の下のほうにも死んだ人がいる。川に近い。
- 戦があったかもしれない場所に、川を使って向かっているように見える？

どこに向かっているのかを確認するため、前に作った昔の川・湖を書き込んだ地図を見てみることにした。

【香取の海】（参照：道庭城のなぞは沼にある）



よくみると、今の地図にも細かい川があった。たぶん香取の海の残りだと思う。それも地図に書き込むと、死んだ人たちは、香取の海へ行く道を守っているようにみえる。道庭城のまわりも、香取の海へ行く道のようにみえる。道庭城は、香取の海に進出するための道だったのだ！そして、少し不思議に思ったのが、江戸川はあまり使われていないことだ。

吉川市史に

下総乃国図には、この自然堤防上を通る街道が描かれており、花和田-彦江-番匠免-彦倉-彦川戸-彦糸-高久-木売-保-平沼-吉川-川藤といった現在の三郷～吉川市域の集落を通過している。おそらく高城氏もこのルートで番匠免へと移動したのであろう。

参照：吉川市史 通史編1 p 214

下妻は、承平五年（935）の『和名抄』に「しもつま」と記されるのが資料の初見・・・

参照：吉川市史 通史編1 p 214 p 391

グーグルマップ利用



と書いてあった。以前調べた時、道庭のそばに

は「下妻街道」というみちがあった。江戸川を使うより、陸の道の下妻街道側がメインだったみたいだ。

(3) 戦

ここまで調べた情報から、道庭エリアは香取の海へ進出するための重要ポイントだということがわかった。では吉川と番匠免の戦はどんなものだったのか。年表をつくってしらべてみたい。1466～1469年・1473年・1517年あたりの戦の理由がわかるだろうか。

①年表をつくる

年	できごと (古河公方チーム：■ 上杉チーム：■ 長尾チーム：■ 小弓公方チーム：■)
1454	享徳の乱：古河公方の足利成氏が関東管領の上杉氏を殺す
1455	① 足利成氏派だったのに、やめて上杉方につこうとしていた千葉氏の本家を、家臣の原氏（原胤房）が攻撃→千葉城落城→千葉氏本家滅亡 ② もともとの千葉本家の人たちは、古河氏と仲がわるい上杉氏から助けをもらう→市川城へ。 ③ 千葉氏の親戚の馬加（まくわり）氏を千葉氏の本家（下総千葉家）にする→千葉城へ。 ④ 原氏は臼井城から小金城へいく。 ⑤ もともとの千葉氏の一族の東常縁（とうつねより）が、将軍から指令を受けて美濃（岐阜県）から下総にやってくる。下総東庄（とうのしょう）へ。→もともとの千葉一

	族（大須賀氏・国分氏・相馬氏など）をあつめて原氏（千田庄）と馬加城を攻撃
1456	<p>①足利成氏（古河公方）は市川城をせめて、馬加氏をバックアップ</p> <p>②足利成氏の家臣の築田氏、関宿から出てきて足立郡のほとんどを奪取！市川城も奪取！</p> <p>③もともとの千葉本家はそのあと武蔵国に逃げて武蔵千葉氏となる。</p> <p>④東常縁（とうつねより）が上総八幡（市原市）の合戦をおこす。馬加康胤が討死。</p> <p>⑤馬加康胤の子の馬加輔胤が下総千葉氏を継ぐ 千葉城→本佐倉城へ</p> <p>⑥東常縁は文明元年（1469年）まで下総千葉家と戦う。→原氏、東常縁から攻撃を受けまくる</p>
1466 ~ 1469	<p>1467 京都を中心に「応仁の乱」が勃発 幕府は関東の争いどころじゃなくなる。</p> <p>1469 東常縁、自分の国の美濃でトラブルがあり、帰る</p> <p>原氏 やっと下総国を支配下に！</p>
1471	<p>①古河公方 が伊豆の堀越公方を攻める→逆に上杉チームにやられる→古河公方、古河に逃げ帰る→上杉チームに追いかける→千葉氏のところに逃げてくる</p> <p>②馬加氏（下総千葉家）は千葉付近で上杉チームと戦→馬加氏その後本佐倉へ→古河へ行きやすい！！</p>
1473	
1478	<p>①上杉家でもめごと 長尾景春の乱→上杉チーム弱体化</p> <p>②上杉チーム、古河公方に和解をもちかける→古河公方、古河にかえる</p> <p>③下総千葉氏、和解に反対=上杉チームの武蔵千葉氏が盛り上がってきたら困る→長尾景春たちと上杉チームに戦をしかける=下総千葉氏、長尾景春チームにはいる</p> <p>④上杉チームの太田道灌、下総千葉氏達を攻撃するために市川城にやってくる ←古河公方が太田道灌に戦のOKをだしている！！（鎌倉大草紙）</p> <p>⑤下総千葉氏、太田道灌と酒井根で戦→下総千葉氏負ける→臼井城へ逃げる</p>
1479	<p>①太田道灌チーム、武蔵千葉氏をつれて臼井城まで追ってくる。</p> <p>②下総千葉氏達には丁南城・万里谷城の武田氏や飯沼城の海上氏などの上総・下総の豪族のバックアップがつく</p> <p>③太田道灌・武蔵千葉氏チーム、臼井城・丁南城・万里谷城・飯沼城を攻撃→下総千葉氏負ける・太田武蔵千葉チーム也大損害→その後臼井城は下総千葉氏が奪い返す。</p> <p>④太田武蔵千葉チーム、帰る????</p>
1480	<p>長尾景春がまけて長尾景春の乱おわり。 →武蔵千葉氏はどうなった??</p>
1482	<p>古河公方、幕府と和解する。享徳の乱おわり→都鄙合体（とひがったい）</p>

東氏がいる



古河と本佐倉は香取の海でつながっている

道灌がいる



太田チームは本当に勝った？

1486	太田道灌、仲間の上杉氏にころされる
1506	・・・しばらく間があく・・・
1509	原氏、小弓城の城主になっている
1515	里見義通→高城一族の酒井根・八木まで侵攻
1517	①小弓公方・武田が小弓城攻める→小弓城落城→原氏、下総国中に散り散りに！ ②その後下総千葉氏は小弓公方に対抗するため、後北条氏に近づく→失敗
1521	名都借で合戦・前ヶ崎方面で戦 「畔蒜彦五郎 永正 18 辛巳 3 月一田島図書助 其外討死諸人出離生死名都狩にて- 鈴木太郎右工門（本土寺過去帳）」と書いてある 行人台（ぎょうにんだい）で合戦 原・高城チーム、小弓軍を小金から市川まで追いだす 「原蔵人丞殿 金より市河河まで追って打死 臼井、布佐、葛西小弓者共。（本土寺過去帳）」と書いてある。「小金」の意味

野蒜・田島・鈴木などの高城氏の家臣も討死！

小弓公方が原氏チームを一掃しようとしている??

小弓公方がいる

参照：享徳の乱～古河公方と堀越公方 | 日本の歴史 解説音声つき (kaisetsuvoice.com)、上総下総千葉氏 p 138-p 171、吉川市史 p 205.211、よしかわのあゆみ、みさとのあゆみ、千葉孝胤 | 千葉家 22 代当主。享徳の乱で太田道灌と争う | 戦国録 (sengokuroku.jp)

年表をみて 1466 年、1469 年、1473 年、1506 年、1517 年の道庭エリアの戦の理由を考えてみた。

年	戦があった理由
1466～1469	東氏がいて原氏を攻撃しまくっているから
1473	上杉氏に攻撃されている古河公方が逃げ込んできたから
1506	?
1517	小弓公方がいて原氏を攻撃しまくっているから



国土地理院地図利用

原氏がだれかに一掃されそうになっているから、道庭エリアでも戦がおこったのではないかと考えた。1517 年の戦の場合、それより少し前に高城氏は敵に酒井根に侵入されている。ここは、本土寺過去帳を調べた時、よく出てきた土地で、香取の海の入口のそばだ。香取の海に入ると千葉氏の下総国に簡単にはいりこめる。ここを取られたらかなりピンチな場所だ。

ただ、1506年は理由が見つからない。しかし、1479年の臼井城の戦で「太田・武蔵千葉チームが、原・高城の下総千葉チームに攻撃して、下総千葉チームがまけたのに、城をとられていない」という不思議なことがおきていることに気がついた。ここになにかあるのだろうか。

②臼井城のなぞ

そこで、昔に書かれた資料を調べてみることにした。臼井城での戦の話はいろいろな資料に載っていた。「鎌倉大草紙」という本はちょうどぴったりの時期のことが書いてあることが分かった。また、太田道灌状という資料も太田道灌が書いている手紙だから、なにかわかるかもしれないと思って読んでみることにした。

●「鎌倉大草紙」

鎌倉公方足利氏と関東管領上杉氏の動向を中心に、康暦元年(1379)から文明11年(1479)までの約1世紀にわたる関東の動静を記録した軍記物語。別名『太平後記』。この時期の関東の歴史研究に資する重要な史料である。

参照：第六回 かしわ・その時「文明10年12月10日酒井根原の合戦～太田道灌、襲来～」 | 柏市 (kashiwa.lg.jp)、神奈川県立図書館<23398A99917191E591908E862E707562> (pref.kanagawa.jp)

●「太田道灌状」

太田道灌が主君上杉定正（うえずぎさだまさ・1446-1494）の近臣高瀬民部少輔（たかせみんぶのしょう・生没年不詳）に提出した手紙です

参考：第六回 かしわ・その時「文明10年12月10日酒井根原の合戦～太田道灌、襲来～」 | 柏市 (kashiwa.lg.jp)

でも結果がそれぞれバラバラだった。

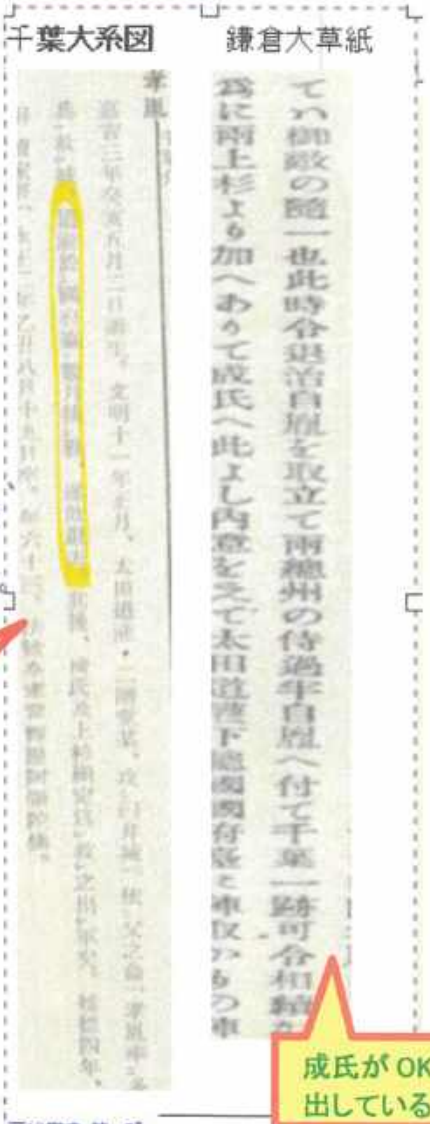
文書名	内容	勝敗	
千葉大系図	太田道灌・二階堂なにかしが臼井城に攻めてきた。新しい千葉氏の千葉孝胤は、父に命じられて城を救った。道灌は国府台で数月戦いを挑んできたが、とうとう負けて帰った。	太田	×
		千葉	○
千葉臼井家譜	文明11年正月18日に太田道灌軍が市川からきて戦になった。十何回も戦ったけれど勝敗はつかなかった。7月15日に太田道灌の弟が戦死した。道灌は脱力して敗北した。	太田	×
		千葉	○

太田道灌状	太田道灌は臼井城を攻めたけれど、ずっと長い間と布陣していた。悪いことがおこったから帰ることにしたら、武蔵千葉氏の自胤に海上備中守と上総介と武田参河入道が孝胤を裏切って服従してきた。	太田	?
		千葉	?
鎌倉大草紙	千葉氏の千葉孝胤は負けたけれど、武蔵千葉氏の自胤はずっと長く布陣してたので城には攻め入らなかった。そのあと自胤は石浜まで帰ったけど、臼井城には城代をおいた。	太田	○
		千葉	×

勝手に何人も降参してきた

?なぜか城を占領しない

臼井城は負けたのか勝ったのかわからないけど、太田チームは市川に戻ったらしい。そういえば、太田道灌は武蔵千葉氏をつれていた。武蔵千葉氏をつれている理由は、鎌倉大草紙に「(武蔵千葉氏の)自胤に、千葉の跡を相続させようと、古河公方の成氏から OK をもらったから」と書いてあったので、武蔵千葉氏は願いがまだかなっていない。しかも、千葉大系図によると太田道灌は国府台(市川)で千葉氏にまけたらしい。そしてこのあと、太田道灌は仲間に殺されてしまうので、武蔵千葉氏の「千葉氏のトップにもどりたい」という希望はかなわないままになった。だから、長尾景春の乱と享徳の乱がおわっても、武蔵千葉氏だけまだ下総千葉氏と戦おうとしていたんじゃないだろうか? だから乱がおわった 1506 年でも戦があったんだと思う。



道灌、国府台で負けている

成氏が OK 出している

まとめると、道庭エリアは、

- ・中川沿いは下妻街道があるので、江戸川方面よりも敵がうろろしている
- ・原氏が東氏、太田氏、小弓公方に攻撃されていたことが原因で戦が起きている
- ・たぶん武蔵千葉氏にも攻撃されているので戦が起きている
- ・香取の海に出やすい

という場所だ。私は江戸川のほうをよく使うんじゃないかと思っ
たが、予想と違って道庭城側の中川のほうがよく使われていた。だから、敵を見つけたり食い止めたりするためにも道庭エリアに城がある可能性は高いと思う。

原説書書 第1巻 2
国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp)

4. 高城氏の可能性は？

わたしは、道庭城を作ったのは高城氏と予想している。本当に高城氏は道庭は関係がありそうなのか。実際におきたことや書かれたことをみつけて、証拠をつかみたい。

(1) 高城氏は千葉氏の家臣？

①千葉氏での立場

まず、高城氏はどんな立場だったのか。

高城氏の名がはじめて千葉氏被官として資料上に見えるのは**貞治5（1365）年**に六歳で千葉介を継いだ竹寿丸（のちの満胤）の家臣に見える「高城越前守」である（参考『千葉大系図』）
参考:小金城主・高城氏の歴史 (chibasi.net)

兼胤の代の「長臣」として「**円城寺・鎗木・牛尾・高城等、余略之**」とあり、別本千葉系図にも兼胤の四家老「**原・円城寺・牛尾・高城**」とあることから、**十五世紀には千葉氏の重臣であった**ことがわかる。

参考:武家家伝 高城氏 (harimaya.com)

高城氏は『寛政重修諸家譜』によれば「**藤原姓**」の**二階堂氏の流れ**と伝わっているが、別説によれば**原四郎胤高の次男・越前守胤雅から始まる**と伝わるものもある（『小金城主高城氏之由来』八木原文書）。その出自については肥前高木氏との関わりなど他にも説があり、千葉氏の末裔であるという確実な系譜はない。

参考:小金城主・高城氏の歴史 (chibasi.net)

満胤被官として列挙されている人物は「**円城寺式部丞**・・・**高城越前守**」などいずれも常陸行方一族であること、「**下野守胤忠**」から芦澤氏へ宛てられた書状から類推すると、**高城氏は常陸国の豪族の可能性もある**。・・・『松羅館本千葉系図』の兼胤の項には「**四家老、原・円城寺・牛尾・高城**」ともある。

参考:流山市史 通史編 1 - 国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp) p 577

千葉大系図を見てみた。

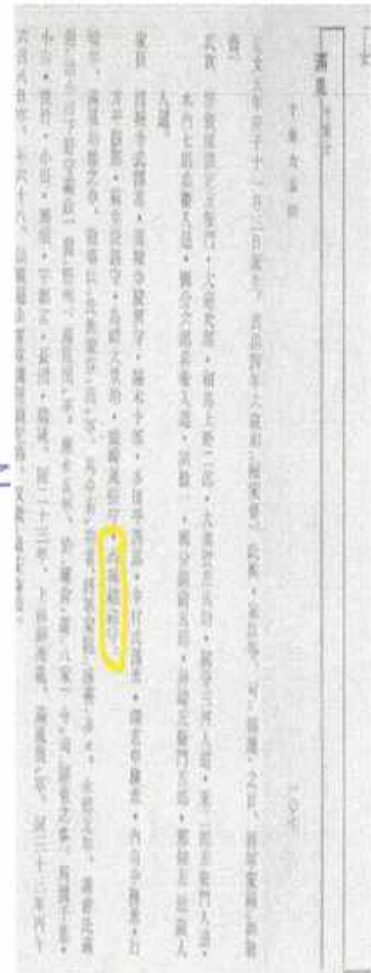
● 「千葉大系図とは」

寛永年間（一六二四～四四）千葉介重胤が選んだという。

参考:『千葉大系図』千葉市-千葉市地域情報デジタルアーカイブ:千葉市史 第1巻 原始古代中世編 (adeac.jp)

千葉満胤の家臣のところに、「高城越前守」と書いてあった。
 原氏のことを調べた時、高城氏は原氏の家臣と書いてあったけれど、
 延文5年（1361年）ぐらいにはもう千葉氏の家臣といわれていることがわかった。

では、本土寺過去帳ではどのように書かれているだろうか。



② 本土寺過去帳に書いてある高城氏の名前

次に、本土寺過去帳で高城氏はどのように書かれているのか。高城氏が書いてある場所を抜き出してみた。

年	名前	そのほか書いてあること	地名
1437 永享 9.6.19	高城四郎衛門清高		クリカサワ (松戸市栗ヶ沢)
1465 寛正 6.4	山倉高城雅楽助法名妙助	中野ノ城之落棄二路次二 テ死スル処 諸人成仏得 路 船橋浦ニテ討死	
1474 文明 6.6.16	妙林尼	高城周防入道悲母	アヒコニテ (我孫子市我孫子)
	妙泉尼	高城和泉守内方	アヒコ (我孫子市我孫子)
1482 文明 14.7	高城六郎左衛門		? (長?) 井

1483	文明 15.3	高城安芸入道 道友		マバシ (松戸市馬橋)
1490	延徳 2.7.19	高城新右衛門	同子息彦九郎	クリカサワ (松戸市栗ヶ沢)
1492	延徳 4.6.17	高城彦六	花井六郎左衛門子息	
1495	明応 4.4.1	高城安芸道友入道		マバシニテ (松戸市馬橋)
1497	明応 6.2	雪曳入道光雲	高城周防守	
1513	永正 10.1.9	春谷靈位	高城彦四郎 殿	名前に 「殿」がついている！
1515	永正 12.2.25	祖翁性高位	高城和泉守 殿	
1517	永正 14.4.28	高城治部少輔 殿	番匠免ニテ被被 (ママ)	
1524	大永 4 甲申七月	高城源左衛門殿成幸位		
1531	享祿 4.9.1	高城彦三郎	小屋島ニテ	
1603	某年某月 ? 11、12日	高城民部少輔	フカイニテ打死 石井弥 七郎 若衆他	流山市東深井
		高城民部少輔 討死	討死同家風五十余人	

すると、

永享9・6 高城四郎工門清高 クリカサワ

参考:本土寺過去帳(天正本) 附 本土寺過去帳(明暦本) / 千葉県 (chiba.lg.jp)

と書いてある場所が最初だった。それより前の人はいなかった。道庭城は高城氏が建てた、と考えているので、道庭城は永享9年(1361)ぐらいより後にできたということになる。そして、1500年ぐらいから、高城氏の名前に急に「殿」がつきはじめた。敬称がついたので、このあたりから高城氏が偉くなったのでは?と思った。しらべてみたら、高城氏が千葉氏の娘と結婚した(参考:高城胤吉とは 千葉氏の一族として松戸を領した戦国武将 - 武将人物情報・史跡情報「歴史観」(rekan.jp))からだと思う。たぶん、そのあたりで原氏からいろいろ土地とかを譲ってもらったんだろう。

③家臣でも妙見・そばたか神社をまつてもいいのか？

高城氏は千葉氏の親戚ではないけれど、親戚の扱いを受けていた家臣だったらしい。

和田氏の出自は藤原氏であったにもかかわらず、和田氏が千葉氏にとって重要な地理的位置を領有していたことから、千葉氏は和田氏を同族として扱い・・・この和田氏の事例を高城氏にあてはめた場合、

①高城氏の支配領域が房総の玄関口ともいうべき、東葛飾地域の大半をしめていたため、**千葉氏から重要視されたこと**

②足利氏（古河公方）、北条氏（小田原）、上杉氏（越後国）などの諸氏も**東葛飾地域を「境目の領域」として重要視していたこと**

などの状況を考えると、**千葉氏は高城氏を単なる家臣に位置づけたのではなく、一族に擬制すること**で、要地である東葛飾地域を支配したといえる

参考:流山市史 通史編 1 - 国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp) p 577

高城氏は、**支配している場所が境目の場所で重要な位置だったから、千葉氏からも一族の一人と扱われていた**、ということらしい。だから千葉氏の娘と結婚もしている。高城氏は千葉氏と同じくそばたか神社や妙見をおまつりしてもいいはずだ。高城氏がつくった城のそばにあるそばたか神社と妙見神社はたぶん高城氏の小金城の鬼門除けなのだろう。



グーグルマップ利用

千葉常胤が源頼朝から下総国などを恩賞でもらったらしい



千葉大系図 改定房総叢書
国会図書館デジタルコレクション

④千葉氏の土地

千葉氏の土地の境目を一度調べてみた。

千葉氏の領地を「千葉大系図」でも調べたところ、千葉常重の子供の千葉常胤の項目に、源頼朝から下総の守護職にもらったことが書

いてあった。だから、千葉氏の領地に下総国がはいつている。

でも、下総国とは千葉県のことではないのか？道庭エリアは埼玉県だ。そうだとすると、埼玉県の道庭城は、千葉氏の家臣の高城氏がつくることはできない。そこで、下総国について調べた。

下総国との境界である河川は、地名や道が川を渡る場所から、北から「わと（和戸＝現埼玉県南埼玉郡宮代町）」、「かすかべ（春日部）」、「八てう（八条）」という地名から古利根川（中川）となる。

参考: [葛飾区史 | 第2章 葛飾の成り立ち\(古代～近世\)](http://katsushika.lg.jp) (katsushika.lg.jp)

古代の三郷市域は千葉県の北部であった下総国に含まれており、現在の中川が下総国と武蔵国の国境だったのです。

参考: [三郷市のあゆみ](#)

道庭エリアのある吉川市やその近くの郷市は、昔は下総国の一部だった。



だから、道庭エリアも千葉氏の土地だ。これらの情報をもとに、高城氏のエリアの松戸市と道庭地域を地図に書き込んでみた。

すると、確かに千葉氏の土地の境界線ギリギリに高城氏のエリアと道庭エリアがある。境目=重要な土地ならば、道庭=重要な土地ということになる。

そして境目には城がおかれることがあるらしい。

敵の領地と接するような場所には、いつ敵が攻めてきても発見できるように城が築かれました。こうした国境の見張りや守備を目的にした支城は「境目の城」と呼ばれます。
参考:お城の「支城」って?どんな城のことをいうの? 一超入門!お城セミナー【構造】(shirobito.jp)

以前も、道庭城は古河公方の家臣の築田氏を見張るため、と考えたことがあったが、築田氏というよりも中川全体を見張る役割だったのではないかと、思った。
ここまでのことをまとめると、

- ①千葉氏の親戚ではなく家臣
 - ②延文5年(1361年)ぐらいから現れる
 - ③1500年あたりから『殿』がつくくらい偉くなった
 - ④境目に領地があるので千葉氏に一目置かれていた
- 道庭は中川を見張るベストポジションにある

ということになる。きっと高城氏の境目の城だ!



【引用】城びと <https://shirobito.jp/article/525>

(2) 高城氏がたてた城

①城リスト

高城氏の城跡は今も残っていたり、記録が残っていたりするところがある。だから道庭城とちがって、実際にあったことがわかっている。以前つくった資料をもとに高城氏の城を拾いだしてみる。もしかしたら道庭城との関係がわかるかもしれない。

●道庭近くの城 道庭城の謎が謎を呼ぶより

城の名前	誰が作った？	いつ作った？
上本郷館	千葉氏一族の風早四郎入道	鎌倉時代
相模台城	北条長時 北条氏、芳賀氏、新田氏、高城氏 ←多分住んだだけ	建長元（1241）年
中根城	千葉頼胤により築城	文永年間（1264～75）
馬橋城	千葉頼胤	文永年間（1264～75）
本郷城	千葉氏？	不明
松戸城	原氏、里見氏、高城氏 天正十年（1582）には、高城氏が城主	戦国時代前半の城館 享徳年間（1452～1455）
根木内城	高城胤忠	寛正3年（1463）
栗ヶ沢城	高城胤忠	東氏がいる
前ヶ崎城	高城氏	文明10年（1478）にはあった
行人台城	高城胤忠	1462
名都借城	誰が作ったかわからない。高城氏の属城？	1530年？に高城氏がゲット？
小金城	高城胤吉 居城	天文6年（1537年）もっとまえからあるっぽい
殿平賀城	高城胤吉	1537年？ 小弓公方がいる
幸谷城	高城胤吉	1537年
中金杉城	高城胤吉	天文7（1538）年？
根本城	「高城播磨守」が1592年に再興	天正18（1590）？
向台館	高城氏の居城	
幸田城	不明	不明
金ヶ作陣屋	-	享保年間(1716-35)
花輪城	平本定虎	16世紀後期

【参考】市立博物館学芸員による松戸の歴史解説「小金城と根木内城」 松戸市立博物館 | 松戸市 (city.matsudo.chiba.jp)、小金城 - Wikipedia、松戸の城跡を訪ねて(4) - 松戸よみうり (matsuyomi.co.jp) 城郭図鑑 / 馬橋城 (coocan.jp)、名都借城 武士の館 (fc2.com)、日本城郭体系第6巻

すると、同じ時期に同じ人が城を作りまくっていることがわかった。

★ (1460-1462) 高城胤忠 (たかぎたねただ) がつくりまくる

松戸城?	享徳年間 (1452~1455)	時期的に高城胤忠?
栗ヶ沢城	1460	高城胤忠 (たねただ)
根木内城ねぎうちじょう	1462	高城胤忠
行人台 (ぎょうにんだい)	1462	高城胤忠
前ヶ崎城?	1478年にはあった (本土寺過去帳で「落城」と書いてある)	?

○前ヶ崎城について

前ヶ崎城は作られた年と作った人がわかっていない。場所を確認すると、やっぱり高城胤忠がつくりまくった城のひとつなのではないかな、と思う。

前ヶ崎城について調べてみた。

初めて出てきているのに
落城している!!

前ヶ崎

<沿革> 『本土寺過去帳』の文明十年 (1478) 十一月三日の項に、「前崎落城打死太田六郎殿同戸張彦次郎殿討死」とあるのが初出とされる。

参考: 前ヶ崎城と太田六郎: 道灌紀行は限りなく (doukan.jp)

そこで本土寺過去帳を見てみたら、「太田六郎殿 十一月 前崎落城打死 同 戸張彦次郎殿討死」とあったのだけれど、何年かは書いていなかった。だから、前ヶ崎城が落城した年がなんで1478年とわかるのか、と思ったので調べた。すると、文明とはかいていないけれど、戸張彦次郎と同じときにしんだ太田道灌の弟の太田六郎が1478年の酒井根原の戦いにおいて、その戦いで死んだ可能性が高いということが「太田道灌状」第20段からわかるらしい。だから1478年に前ヶ崎城は落城したということらしい。(参考: 前ヶ崎城と太田六郎: 道灌紀行は限りなく (doukan.jp)) 資料は自分でいくつか読んで、いろいろつなげて推理しなければならないんだな、と思った。

★1537年 高城胤吉（たかぎたねよし）が城をつくりまくる

小金城	天文6年（1537年）	高城胤吉（たねよし）
殿平賀城	1537年？	高城胤吉
幸谷城	1537年	高城胤吉
中金杉城	天文7（1538）年？	高城胤吉
（名都借城）	？	誰が作ったかわからない。 高城氏の属城？

これらの城をつなぐと、壁のようになった。



グーグルマップ利用

図を見ると、道庭城と江戸川をはさんで高城氏の城が向かい合っているように思う。なにかあるのだろうか。

②高城胤忠のお父さん

1460～1462年の高城胤忠についておもしろいことが書いてあった。一番初めに道庭エリアのそばで亡くなった人を本土寺過去帳でしらべたとき、

1473 出雲公 文明五癸巳二月 吉河 （埼玉県北葛飾郡吉川町）

と書いてあった個所をみつけている。身分の高い人が吉川でなくなっている。この人はだれなの

かと思って調べてみたら、「高城胤忠のお父さん？」という意見があった（参考：[小金城主・高城氏の歴史 \(chibasi.net\)](#)）。確認するため、前に使った千葉氏関係のことが書いてある千学集で調べてみた。すると、

中山殿と申は、**原越後守胤房の末子胤宣**（たねよし）、中山八郎太郎といふ。**後出雲守**と申、子二人、**長子胤タダ下野**といふ、次子胤義自部小輔。

参考：[房総叢書 第1輯 - 国立国会図書館デジタルコレクション \(ndl.go.jp\)](#)

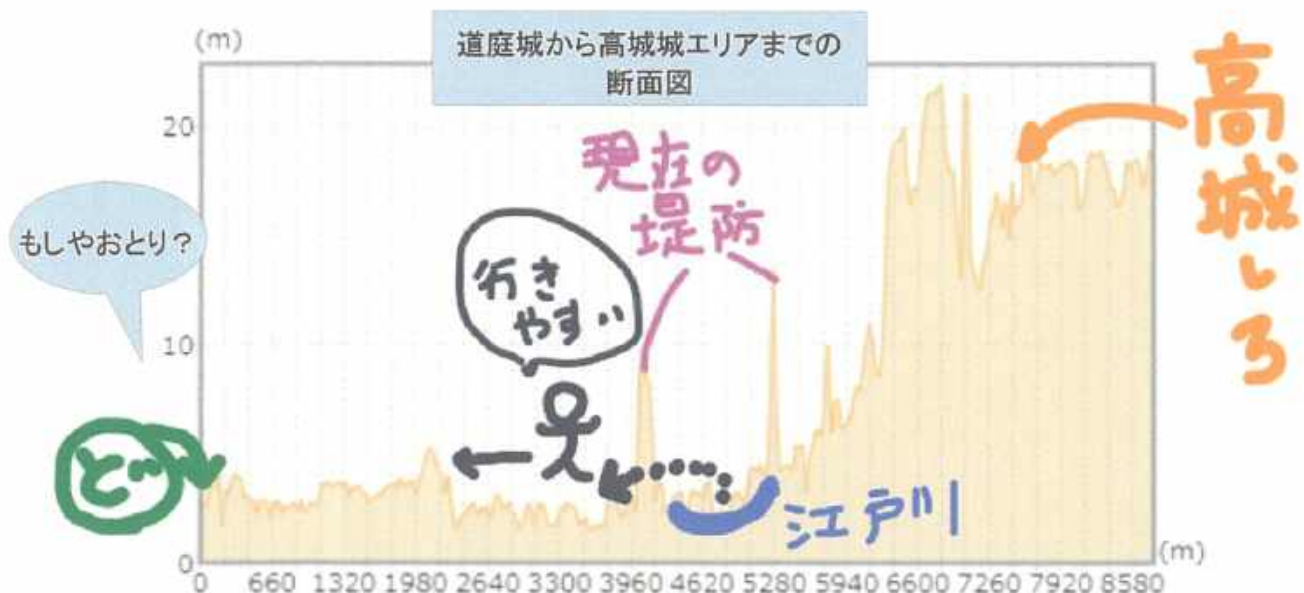
と書いてあった。胤タダは「高城胤忠（たかぎたねただ）」かもしれない！

お父さん：原胤宣（中山殿・出雲公）吉川で死んだ人——子供：胤タダ下野（胤忠下野守）??

吉川で死んだ出雲公は原氏の人で、高城胤忠のお父さんだとすると、親子だから権力や城を譲っていたりしたのかもしれない。そして、子供と親で江戸川を監視したのではないか。監視がすごいから敵が江戸川をさけたので、本土寺過去帳で江戸川周辺で死んだ人がいなかったのかもしれない。

高城氏の城から道庭エリアまでの土地の高さを比べてみたところ、高城氏の城方面よりも道庭のほうが土地がものすごく低く、川から侵入しやすそうだ。

地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院



親の出雲公のほうに敵をひきよせて、高城氏が後ろから攻撃するエリアだったのかもしれない！



グーグルマップ利用

(3) 過去帳と城

高城氏が城をつくった時期と本土寺過去帳で調べたことをあわせてみる。なにが高城氏におきたのか。

次のページへ →

年	出来事	
	城	本土寺過去帳
1460	栗ヶ沢城できる	高城胤忠が城作った時期
1462	根木内城ねぎうちじょう できる 行人台（ぎょうにんだい） できる	
?	前ヶ崎城できる	
1465		山倉高城雅楽討死 船橋
1474	船橋で討死？	高城周防入道のお母さんしぬ 高城和泉守のおくさんしぬ
1478	前ヶ崎城落城！！	
1482		高城六郎左衛門死ぬ？（長？）井
1483		高城安芸入道 道友 マバシ
1490	マバシ・クリガサフで死ぬ人多い	高城新右衛門 死ぬ クリガサフ
		高城新右衛門 の子供彦九郎死ぬ クリガサフ
1492		高城彦六死ぬ
1495		高城安芸道友入道 マバシ
1497		高城周防守 死ぬ
1513		高城彦四郎 殿 死ぬ
1515		高城和泉守 殿 死ぬ
1517	番匠免で討死？	高城治部少輔 殿 討死 番匠免
1524		高城源左衛門殿 死ぬ
1531		高城彦三郎死ぬ 小屋島ニテ
1537	小金城できる （もっと前からあったかも）	高城胤吉が城作った時期
	殿平賀城できる	
1537	幸谷城できる	
1538	中金杉城できる	

東氏がいる

道灌がいる

武蔵千葉氏が
せめていたかも

殿がつく！

里見氏が
侵攻！

小弓公方がいる

年表を見ると、高城胤忠が城をつくりまくったのは東氏がせめてきていたからで、高城胤吉が城を作りまくったのは小弓公方がいたからだ。

ここで、不思議に思った。東氏も小弓公方もみんな千葉県にいる。里見氏が攻め込んできた酒井根も千葉県だ。江戸川や中川はあまり関係なさそうに見える。

国土地理院地図利用



道庭エリアにちかいところでは、番匠免で高城氏が討死している。でも一回だけだ。番匠免で戦があった理由は、

小弓公方の誕生の過程の中で北上する高城軍と南下する義明軍との衝突によるものと考えられる
参考: 吉川市史p 214

と書いてあった。小弓公方が小弓城に行く途中で高城氏が止めに行ったのかなと思った。だから、小弓公方が小弓公方になってしまったあとでは、高城氏に攻め込んでくる道は千葉方面からになわってくるはずだ。やっぱり中川や江戸川は使わない。川と戦は関係ないのかをしるために城の位置図と、前に本土寺過去帳で調べた「亡くなった人たちの位置図」と重ねてみた。



すると、高城胤忠の城ライン（オレンジ）と高城胤吉の城ラインで、香取の海に進まれるのをガードしているように見える。もしかして酒井根という地名は、さかいね=さかいめ=境目という意味なのか？香取の海との境目という意味なのかもしれない。だとしたら、道庭は境目の城ではないことになってしまう。そして、この図から見ると、高城氏はずっと香取の海の入り口を守るために城を作っているように思える。高城氏が城をつくる理由が「香取の海をまもる！」だとしたら、道庭城は高城氏とは関係ないことになる。

5. そばたか神社と高城氏の城

(1) 家紋のなぞ

そばたか神社は千葉氏の城の守り神なので、千葉氏の城といっしょにある。以前、高城氏の小金城のそばにある松戸のそばたか神社にいったとき、不思議に思っていたことがある。そばたか神社の家紋がおかしい。

○松戸のそばたかにいって見た



お賽銭箱にあった家紋は千葉氏の月マークに違いない、と思っていたけれど、羽マークだった。この羽マークは「丸に違い鷹の羽紋」というらしい。なにか千葉氏に關係するのか、と思って調べてみたら、

丸に違い鷹の羽紋

荒井家、飯塚家、岩崎家、大石家、大谷家、鎌田家、菊地家、小泉家、今野家、坂口家、鈴木家、高野家、多田家、長田家、東氏

【参考】民俗学の広場「鷹」の家紋 (folklore2017.com)

と書いてあった。東氏は千葉氏の中でも有名な一員だ。なにか關係があるのだろうか。まだしっかり調べていないので、また確認しようと思う。

参考:道庭城のなぞは沼にある

そばたか神社の家紋が東氏のものだ。



グーグルマップ利用



高城氏の領地の真ん中にある小金城のそばなのに、高城氏の敵だった東氏の家紋のついたそばたか神社があるのだ。どうしたことだろうか。

(2) そばたか神社はいつできたのか

高城氏は「延文5年(1361年)ぐらいにはもう千葉氏の家臣といわれている」と調べている。松戸市のそばたか神社は1361年より後にできていないと高城氏とは関係ないものになってしまう。そこで、以前調べたそばたか神社(※参考:「道庭城の謎は沼にある」)のリストをもとに、神社がまつられた時期をしらべた。

○そばたか神社ができた年

調べてみたら、そばたか神社は思ったより古いものだったことが判明した。もしかしたら、そばたか神社が先にできて、そこに千葉氏が城をくっつけてたてた、ということも考えられそうだ。

【そばたか神社リスト】

	名前	住所	年	城	持ち主	
1	側高神社	千葉県香取市大倉	神武天皇 18年 : 紀元前 643年	大倉城	大蔵親胤	国分氏
2	側鷹神社	茨城県行方市小高	8世紀初め	小高城	行方氏	相馬氏
3	側高神社	千葉県成田市取香	大同2年(807)			
4	隣高神社	千葉県山武郡芝山町 下吹入千田城	大同2年 807	千田城	<u>千田氏</u>	千葉一族
5	相馬高神社	千葉県山武郡芝山町 上吹入	大同2年 807		井田氏	千葉氏?
6	脇鷹神社	千葉県成田市小泉	大同3年 808	小泉館	大須賀氏?	大須賀氏
7	側高神社	千葉県香取郡多古町 本三倉	997	三倉城		
8	祖波鷹神社	千葉県香取市岩部	長保二年 999年	荒北城	東氏	千葉一族
9	脇鷹神社	千葉県旭市清和甲	正治2年 (1200)にはもうあった?	諸徳寺城	諸徳寺胤直	

10	稲荷側鷹合神社	千葉県香取市西部田	1244年	次浦城跡	粟飯原氏	千葉一族
11	蘇羽鷹神社	千葉県松戸市二ツ木宮前	1264	馬橋城など	高城氏	
12	側高神社	茨城県稲敷郡河内町金江津	1381-1383	大須賀城	大須賀氏？ 高城氏管理！！	
13	蕎高神社	埼玉県吉川市高富	1460にはあった	道庭城？		高城氏登場ライン
14	蕎高神社	埼玉県吉川市高久	1460にはあった	道庭城？		
15	側高神社	千葉県香取市丁子	不明	山崎城	不明	
16	蘇羽鷹神社	千葉県印西市笠神	不明	笠神城	原豊前守？	千葉常胤家臣
17	脇鷹神社	千葉県香取市伊地山	不明	伊地山城	武田氏？	
18	素羽鷹神社	千葉県印旛郡栄町酒直	不明	広の台城	羽鳥新介	千葉一族
19	脇鷹神社	茨城県稲敷市飯出	不明	酒井城		

参考: 祖波鷹神社 (komainu.org) 成田市史 中世・近世編 - 国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp) 日本城郭大系 第6巻 - 国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp) そばたか神社(3)-側鷹神社(行方市) まほらにふく風に乗って (mahoranokaze.com) 干潟町史: 町制施行二十周年記念 - 国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp) 香取市西田部 極彩色の神社彫刻 | キャプテン村社 (note.com) 山武地方誌 - 国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp) 木の神と矢の神 (nire.main.jp) 側高神社(香取市大倉) - Shrine-heritager (shrineheritager.com) 三倉城 久保城 多古町 余湖 (coocan.jp)

このリストに高城氏が登場した年を書き込んでみたら、松戸市の蘇羽鷹神社は高城氏が登場した時よりも早く祀られていることが分かった。だから、松戸市の蘇羽鷹神社は高城氏の鬼門除けではない。それより前に東氏の関係者が建てた物だと思う。だから、高城氏がそばたか神社をおまつりしていた証拠にならない。ただし、道庭エリアのそばたか神社であれば、高城氏は建てるのが可能だ。

(3) そばたか神社のある土地

そこで、なにかヒントがあるかもしれないので、いくつかのそばたか神社を見に行ってみた。

高城氏の家紋や他の家紋があるかどうか調べたい。

高城氏の家紋



①千葉県成田市取香のそばたか神社

この神社は、空港のそばだったので、移転されているらしい。だから城の跡とかもわからなくなっている。



国土地理院地図利用

でも、土地のこぼこがわかる地図を使うと、この神社は川のそばにある盛り上がった場所にある。そして、地名に「堀の内」とある。

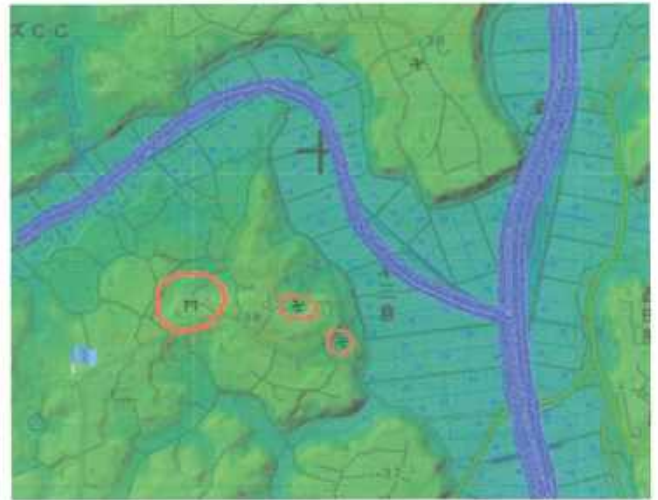
地名については、

埼玉県の城を調べてみると、「堀の内」などの名前がついている謎の城がたくさんありました。
参照:道庭城の謎は深まるばかり

と以前も調べている。「堀の内」という地名は城があったところに多い。だからここには城もあったに違いない。そして、近くに寺と他の神社もある。たぶん鬼門除けにつかう妙見じゃないかな、と思った。鳥居などに家紋はついていなかった。

②千葉県香取郡多古町本三倉のそばたか神社

この神社は、小さな山の上にあった。そして、三倉城という城があったところらしい。



この神社には「月読大神」と書いてある石碑があった。

月は千葉氏のマークだから、千葉氏と関係がある神社だったのではないかと思います。そして、この神社も川が近くにあり、盛り上がった場所に建てられている。そしてやっぱり寺が近くにある。この神社にも家紋はなかった。



③埼玉県吉川市高富のそばたか神社

道庭エリアのそばたか神社にしてみました。



道庭エリアの神社だけ、他の神社と地形が違う。うっすら盛り上がっている場所だけれど、川が入り込んで削って作ったような土地ではない。そしてこの神社にも家紋はなかった。

④高城氏の城の地形と比べた

高城氏の城のある場所も地図で確認した。

高城氏がつくった小金城をみると、取香や三倉のそばたか神社と同じように川のそばのがけのようになった場所にある。やはり道庭城だけ地形が違う。



国土地理院地図利用

(4) まとめると・・・

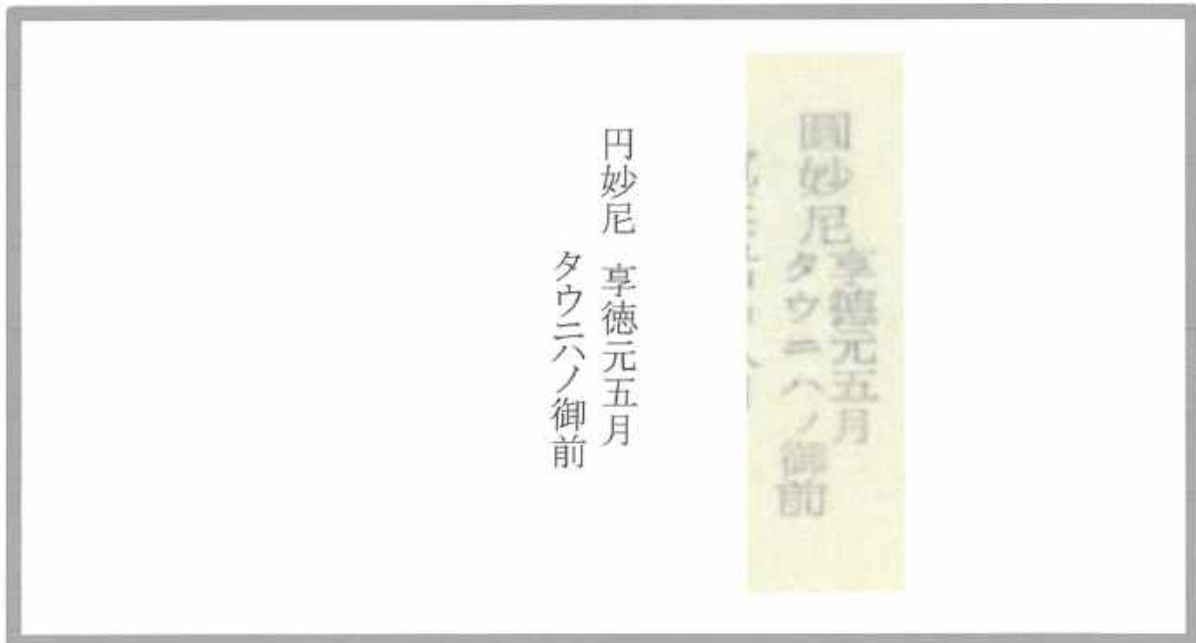
道庭城の交通の便利さや市・関所があること、妙見・そばたか神社などだけで高城氏の城があったと決めるにはまだ証拠が足りない、と感じた。

道庭城があると思う理由	高城氏の城だと思った理由	高城氏の城と言い切れない理由
<ul style="list-style-type: none"> ・ 妙見、そばたか神社がある → 妙見とそばたか神社は城のあった証拠！！ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高城氏がいる場所が道庭エリアに近いから ・ 小金城のそばにも、そばたか神社をおまつりしているから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 松戸のそばたか神社は高城氏の鬼門除けのものではない=高城氏がそばたか神社をおまつりしていた証拠として使えない
<ul style="list-style-type: none"> ・ 道庭エリアで戦があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 番匠免で高城氏の一族が討死したから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高城氏の守る場所は香取の海の入り口で、道庭エリアと方向が違う
<ul style="list-style-type: none"> ・ 川を見張ることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中川と江戸川を監視するために道庭城が必要だと思ったから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 敵は川をあまりつかわない
<ul style="list-style-type: none"> ・ 市場・関所がある ・ 交通が便利 	<ul style="list-style-type: none"> ・ お金が絡むので、もうけるためにちょうどよい場所だから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高城氏は他の市場・関所のまわりにも城を置いていない
		<ul style="list-style-type: none"> ・ そばたか神社は川が入り込んだ崖にある。そこに城もある。高城氏の城も崖にある。道庭エリアのそばたかだけ崖にない。

もう一度証拠を探し直そうとおもった。

6. みつけた LADY・DONIWA

道庭城は高城氏の城だと思っていたが、証拠が見つからない。そこで、もう一度「本土寺過去帳」を読み直すことにした。すると、みつけた。



参考:千葉県史料 中世編 本土寺過去帳 - 国立国会図書館デジタルコレクション (ndl.go.jp)

夕ウニハノ御前だ。

戒名に、円妙「尼」とあるので女の人だ。本土寺過去帳の地名一覧表に、

道庭 道庭・夕ウニハ 埼玉県三郷市か

とかいてあるので、「夕ウニハ」は「道庭」で道庭エリアのことをいうようだ。「道庭御前」という人が、享徳元年（1452）の5月になくなっている。吉川や番匠免で戦があった時より前だ。道庭御前がどのような人なのか、調べてみることにした。まず、御前とはどういう意味か。

貴人や高位の人の敬称。また、その妻の敬称。

参考:御前(ごぜん)とは? 意味・読み方・使い方をわかりやすく解説 - goo 国語辞書

「〇〇御前(ごぜん)」とは、貴人や高位の人につけられる敬称です。その妻の敬称としてもつけられました。

参考:結局何が違うの? 「姫」「御前」「局」など、昔の女性の呼び名・敬称あれこれ | 歴史・文化 - Japaaan

身分の高い女性や特定の場所にいる女性、特定の仕事をする女性たちには、呼び名がありました。有名なものでいうと、先ほどもご紹介した「〇〇御前」や「〇〇姫」、「〇〇局（つぼね）」など。

参考: [結局何が違うの? 「姫」「御前」「局」など、昔の女性の呼び名・敬称あれこれ | 歴史・文化 - Japaaan](#)

御前は身分の高い人の敬称らしいので、道庭御前は貴婦人だった。本土寺過去帳の他の「御前」を抜き出してみる。

亡くなった年	戒名	生きていたときの名前
1452	円妙尼	タウニハノ御前
1466	妙珍比丘尼	印西師戸御前
1468	妙祐尼	カ子スキササ□ (ウメ) ン御前
1469	妙秀尼	八条ノ御前
1475	妙巖尼	マイカ崎御前日暁ヲハ
1476	法正尼	浄金ノ御前
1481	妙円尼	本郷御前
1482	妙正尼	栗原南ノ御前左近五郎母儀
1485	妙長尼	ミコツキ妙儀御前
1489	妙光童子	アヒコ御前
1621	養珠院殿日心尼	大相国家康御前

徳川家康の側室

すると、ほぼ全員が「地名」+「御前」だ。たぶんこの人たちが住んでいた場所なんだと思う。1621年の大相国家康御前だけ結婚相手の名前がついている。この人は徳川家康の側室だった人らしい（参考：[養珠院・お万の方～徳川頼宣・徳川頼房を産んだ徳川家康の側室～ \(yoritomo-japan.com\)](#)）。家康の側室が「御前」だから、道庭御前も千葉氏の中でも地位の高い人の奥さんだったかもしれない。道庭御前が住んでいた場所を「道庭城」とすると、戦に強いがけっぷちのような場所でもなくてよい。住むのに便利な市場の近くで、交通に便利で、それほど戦が激しくない場所がちょうどよいと思う。道庭城は生活するための城だったのだ。

道庭城にすんでいた人は武将ではなく、女の人だった。これからもっと調べをすすめたい。

7. まとめ

今回の調べをまとめてみた。

本とか城跡があるわけではない！

● 道庭城があったと思う理由

- ・ 千葉氏の守り神の妙見とそばたか神社があるから
- ・ かわらけが近くから出てきたから
- ・ 小字に「井『堀』」とつく場所があるから
- ・ 下妻街道と中川がそばにあり、交通に便利だから
- ・ 国の境目だから
- ・ 香取の海の一部だから

● その中で、高城氏だと思った理由

- ・ 千葉氏の関係者だから
- ・ 道庭エリアと川をはさんで反対側にすんでいるから
- ・ 番匠免で討死したり、三郷市の南の端っこに城を作ったりして、江戸川を越えて進出しているから
- ・ 高城氏の城の近くにもそばたか神社があるから

証拠がなければ幻のまま。なにか証拠を探したい！

そこで記録などが残っているものを探した。

本土寺過去帳	<p>①討死者→「殿・公」レベルの人も！</p> <p>1517年：高城氏（番匠免）</p> <p>1466.1469.1473.1506年：原氏（吉川）</p> <p>②亡くなった人</p> <p>江戸川付近ではあまりいない</p> <p>酒井根原というところのそばに多い</p> <p>道庭エリアのそばでも数人いる</p>	理由は鎌倉大草紙などでわかった！
千葉大系図 鎌倉大草紙・太田道灌状など	高城氏	<p>①延文5年（1361年）ぐらいにはもう千葉氏の家臣→四家老</p> <p>②もと原氏の家臣→高城胤忠のお父さんは吉川の戦でなくなった人??</p>
	戦	<p>1466-1469：東氏が原氏に攻撃をしている</p> <p>1473：古河公方が千葉氏のところに逃げてきている</p>

	<p>1506: (武蔵千葉氏が原因?)</p> <p>1517~: 古河公方が攻めてきている</p>
城あと	<p>高城胤忠が作りまくる: 1460-1462</p> <p>高城胤吉が作りまくる: 1537-1538</p>
そばたか神社	<p>特徴: 崖にある。だから城も崖にある⇔道庭エリアのそばたかは低地</p> <p>松戸のそばたか神社は高城氏の登場の前からある→高城氏のそばたかではない</p>

地図にまとめてみた。



賑わっているけれど戦はそれほどない→町??

調べてみたら、道庭エリアは戦で活躍するタイプの城ではなさそう。でも高城氏の城が一番危険なポイントを守るように建てられている。そのため崖っぴちにつくって防御している。ばりばりの戦タイプの城な気がする。だから、道庭城は高城氏の城ではないかもしれない。

では、誰の城か? 一人だけ本の中にいた。道庭御前という女の人だ。道庭城の持ち主は道庭御前で、道庭城はもしかして家だったのかもしれない????



8. おわりに

今回、とうとう道庭城に住んでいる可能性の高い人を見つけました。記録で道庭がでてきたのです。はじめてです。これで道庭城は幻ではなくなったのではないのでしょうか。

ただ、道庭御前は死んだ日を書いてあるだけで、だれなのかさっぱりわかりません。調べが進んだらどんな人がでてくるのか、たのしみです。

今回、三郷市から私の研究について問い合わせがありました。郷土史の本をつくるときに使いたいとのことでした。これがきっかけで、今までどうやっていいかわからなかった発掘調査とか、三郷市がこれまでみつけた埋蔵物を教えてもらえるかもしれないです。

あと、福島県に道庭という地域があることを最近しりました。千葉にも道庭があります。埼玉の道庭とあわせてなにか関係があるのかもしれないです。

今、福島県に連絡をとっています。他にも道庭城について研究している方もいるので、もしかしたら全然違う答えがでてくるかもしれません。

最後の一年、道庭城が幻ではなくなることを祈っています！！

おしまい

は
る
ね

参考・引用文献リスト

(本を参考にした場合)

● 本

NO.	著者名	書名	出版社名	出版年
1	これだけは知っておきたい教科書に出てくる日本の城編集委員会	これだけは知っておきたい教科書に出てくる日本の城	汐文社	2016年7月
2	吉川市史編さん委員会	吉川市史 通史編 原始・古代・中世・近世	株式会社ぎょうせい	平成26年3月31日
3	吉川市史編さん委員会	吉川市史 資料編 原始・古代・中世	株式会社ぎょうせい	平成21年3月31日
4	丸井 敬司	上総下総千葉一族	KADOKAWA	1999.12
5	吉川市史編さん委員会編集	年表 吉川のおゆみ 市制20周年記念誌 普及版	吉川市教育委員会	2016年3月
6	三郷市史編さん委員会	三郷市のおゆみ	ぎょうせい	平成11年
7	児玉幸多, 坪井清足	日本城郭体系第6巻	新人物往来社	1980.2
8	三郷市史編さん委員会	三郷市史第一巻 原始・古代・中世資料編	ぎょうせい	平成二年
9	埼玉県教育委員会	埼玉の館城跡	国書刊行会	1987.1
10	白石敏夫	二郷半領開拓史	みさと郷土史研究会	昭和62年
11	千葉氏サミット実行委員会	千葉一族入門事典	啓文社書房	2016.8
12	吉川町教育委員会	わたしたちの郷土 よしかわ地名編	吉川町教育委員会	1982
13	「みて学ぶ埼玉の歴史」編集委員会	みて学ぶ 埼玉の歴史	山川出版社	2002
14	流山市立博物館市史編さん係	流山市史 通史編 1 p577	流山市教育委員会	2001
15	千葉市史編纂委員会編	千葉市史 第1巻 原始古代中世編	千葉市	1974.3
16	成田市史編さん委員会	成田市史 中世・近世編	成田市	1986.3
17	松沢 和彦	干潟町史	干潟町教育委員会	1996
18	山武郡町村会	山武地方誌	千秋社	1986.5

● 電子書籍

NO.	著者名	書名	出版社名	出版年
1	松下邦夫	松戸の歴史案内 改訂版: 国立国会図書館デジタルコレクション	松下邦夫	1987
2	森田洋平	本土寺過去帳地名総覧 上: 国立国会図書館デジタルコレクション	我孫子市教育委員会	1987
3	森田洋平	本土寺過去帳地名総覧 下: 国立国会図書館デジタルコレクション	我孫子市教育委員会	1987
4	森田洋平	本土寺過去帳年表: 国立国会図書館デジタルコレクション	我孫子市教育委員会	1987
5	改訂房総叢書刊行会	房総叢書 第1輯: 国立国会図書館デジタルコレクション	房総叢書刊行会	大正元年
6	改訂房総叢書刊行会	改訂房総叢書 第5輯: 国立国会図書館デジタルコレクション	房総叢書刊行会	1959
7	千葉県企画部広報県民課	千葉県史料 中世編 本土寺過去帳	千葉県	1982.3

● 新聞など

NO.	著者名	書名	出版社名	出版年
1	-	東武よみうり 1面	読売新聞社	昭和60年11月12日

参考・引用文献リスト

(Webページを参考にした場合)

No.	Webページを制作した人・団体名	Webページ名	Webサイト名	更新年月日	URL
1	千葉県	本土寺過去帳(天正本) 附 本土寺過去帳(明暦本)	千葉県	2023	chiba.lg.jp
2	松戸読売新聞社	「松戸市史 上巻」を大改訂 - 松戸よみうり	WEB 松戸よみうり	2015.04	matsuyomi.co.jp
3	安部龍太郎	『歴史の真相』第十三回 ～信長の首が本能寺になかった理由とは？～	安部龍太郎オフィシャルサイト	2024	aberyutarou.com
4	富士宮市	信長公の首塚と足跡	富士宮市	2024	fujinomiya.lg.jp
5	goo	公(こう)とは？ 意味・読み方・使い方をわかりやすく解説 -	goo国語辞書	-	https://dictionary.goo.ne.jp/word/
6	守谷市	千葉氏系図の整理	守谷市デジタルミュージアム	-	adesc.jp
7	茨城県図書館	松蘿館文庫	茨城県立図書館デジタルライブラリー	2024	pref.ibaraki.jp
8	松戸市立博物館	松戸市の歴史	松戸市デジタルミュージアム	2024.2	matsudo-digital-museum.jp
9	八潮市立資料館	市場之祭文	れきナビーやしお歴史事典	2024.9	yashio-rekinavi.com
10	戌と武士	彦名関跡	武士の館	2022	fc2.com
11	左大臣プロジェクト運営委員会	享徳の乱～古河公方と堀越公方	日本の歴史 解説音声つき	2012	kaisetsuvoice.com
12	川添 裕之	千葉孝胤 千葉家22代当主。享徳の乱で太田道灌と争う	戦国録		https://sengokuroku.jp/tokusyuu/tokusyuu.html
13	柏市	第六回 かしわ・その時「文明10年12月10日酒井根原の合戦～太田道灌、襲来～」	柏市	2024	kashiwa.lg.jp
14	神奈川県立の図書館	鎌倉大草紙	史書	2024	https://www.klnet.pref.kanagawa.jp/uploads/2020/12/009kamakuraoozoushi.pdf
15	千葉一族	小金城主・高城氏の歴史	千葉一族	2022	chibasi.net
16	播磨屋	武家家伝 高城氏	風雲戦国史	2013	harimaya.com
17	武将人物情報・史跡情報「歴史観」	高城胤吉とは 千葉氏の一族として松戸を領した戦国武将 - 武将人物情報・史跡情報「歴史観」	歴メン(歴史好きメンバー)新規情報	-	rekan.jp
18	葛飾区総務部総務課	参考:葛飾区史 第2章 葛飾の成り立ち(古代～近世)	葛飾区史	2017	katsushika.lg.jp
19	城びと	お城の「支城」って？どんな城のことをいうの？	超入門！お城セミナー【構造】	2024.09	shirobito.jp
20	松戸市	市立博物館学芸員による松戸の歴史解説「小金城と根木内城」	松戸市立博物館	2024	city.matsudo.chiba.jp
21	松戸読売新聞社	松戸の城跡を訪ねて(4)	松戸よみうり	2015.04	matsuyomi.co.jp
22	-	馬橋城	城郭図鑑	2024	http://jyokakuzukan.la.coocan.jp/
23	個人サイト	名都借城	武士の館 (fc2.com) 、	2024	https://mononohucastle.web.fc2.com/index.htm
24	個人サイト	道灌紀行は限りなく		2024	http://blog.doukan.jp/article/188307024.html: (doukan.jp)
25	個人サイト	祖波鷹神社	神社探訪 狛犬見聞録・注連縄の豆知識	2024	komainu.org
26	個人サイト	そばたか神社(3)-側鷹神社(行方市)	まほらにふく風に乗って	2024	mahoranokaze.com
27	個人サイト	香取市西田部 極彩色の神社彫刻	キャプテン村社	2024	https://note.com/captain_murasha/n/n4d6e818b5d1b
28	個人サイト	木の神と矢の神 ()	神話の森	2024	nire.main.jp
29	個人サイト	側高神社(香取市大倉)	実践和学	2024	shrineheritager.com
30	個人サイト	三倉城 久保城 多古町 余湖	余湖のお城のページ	2019	http://yogokun.my.coocan.jp/
31	goo	御前(ごぜん)とは？ 意味・読み方・使い方をわかりやすく解説	goo国語辞書	-	https://dictionary.goo.ne.jp/
32	株式会社ワノコト	結局何が違うの？「姫」「御前」「局」など、昔の女性の呼び名・敬称あれこれ	Japaaan	2024	https://mag.japaaan.com/archives/167850
33	松戸市	高城氏制札	まつどの観光・魅力・文化	2024	city.matsudo.chiba.jp
34	おかどひでひと	養珠院・お万の方～徳川頼宣・徳川頼房を産んだ徳川家康の側室～	中世歴史巡り	2024	yoritomo-japan.com